

前触れなく、記憶なくなる



ある時、どこで何をしていたのか。後になって、まったく思い出せなくなったとしたら？

63歳のM子さん。夫に連れられてきた。前日、Mさんは、家族で一泊の温泉旅行に出かけた。夕方になって、急にMさんの様子がおかしくなった。どこで浴衣に着替えたか、いつ入浴したか分からないらしい。自分の部屋や食事の場所など、同じことを聞き返す。どうやら、新しいことを記憶できないようだ。何度教えても、その都度、まるで初めて聞いたような反応である。それでいて、家族の顔も名前も間違えない。

そんな状態が、5、6時間は続い

一過性全健忘

たという。だが、翌朝には、いつものMさんに戻っていた。でも、昨夜の数時間に経験したことを、まったく記憶していなかったのだ。

この、ある日突然、何の前触れもなく、新たな記憶がまったくできなくなる病気を、「一過性全健忘」という。1958年に、初めて命名されたが、いまだに原因は明らかになっていない。新しい事を記憶するために必要な「海馬」という脳の一部分が、乏血状態になるからではないかという説もある。

MRI（磁気共鳴画像装置）でみると、発作からある限られた時期に、海馬に異常がみられることもあるという。だが、Mさんの

怖い病気でないのだが

MRIの写真では、海馬はもちろん脳の他の部位にも異常はみられなかった。脳血流も正常で、もの忘れのテストも満点だった。

一過性全健忘は、中年以降に起きる病気だ。異常は、数時間続くことが多い。が、通常24時間内に元に戻る。再発は稀なほうで、認知症にはならない。だから、怖い病気ではないはずだ。でも、「誰もいない時に発症した場合」を考えてみると、ちょっとクワイ病気ではないか。ことに、ひとりである何をしだすか分からないひとは。

（石黒修三 しいしくろクリニック
・脳神経外科専門医、金沢市在住）